

平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立斐太高等学校

学校番号 57

I 自己評価

1 学校教育目標	人間尊重の精神を基調として、知・徳・体に調和のとれた人間性豊かな生徒を育成し、将来国家社会の構成者として、一人一人がその能力と特性を發揮し、有為な担い手となることをめざす。 1 歴史と伝統を重んじ、切磋琢磨の精神に則り、自学自習の気風を高揚する。 2 愛情と信頼を基盤として、自由にして節度ある人間関係を醸成する。 3 健康と体力を増進し、確乎不拔の精神と創造性豊かな実践力を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇ 教務	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学校評価アンケート等の結果から、本校の教育活動に対して一定の評価はあるものの、学習指導では、学力の2極化や多様化する進路希望に対応した指導への期待の高さが依然として伺える。新入試も見据えこれまで以上に個に応じた学習指導を行うことが課題である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・進学重視型単位制としてのカリキュラムを編成し、「学校設定科目」「総合的な探究の時間」も含めて指導計画を具体化する。 ・新しい大学入試を見据えた指導について、生徒の実態とともに、他校実践も参考にして学習指導の充実を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教育課程委員会（小委員会も含む）、学習指導委員会、教科会において情報共有しながら、教育課程や指導計画を検討する。 ・生徒による授業評価や職員間の授業交流により、指導方法の向上と内容の充実を図り、新入試を見据えた授業改善と生徒の学習意欲の向上に努める。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 教育課程委員会等を時宜に応じて弾力的に開催し、現教育課程の検証をもとに新教育課程を編成し、授業計画を行う。 (2) 年1回生徒による授業評価を実施するとともに、前・後期それぞれ2週間の授業交流期間を設置し教科会等で研究などして授業改善に努めている。	(1) 現状の課題改善につながる新教育課程等を編成することができたか。 (2) 学校評価アンケートの結果分析 (3) 授業評価の結果分析 (4) 家庭学習時間調査 (5) 全国模試の結果	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・小委員会や学習指導員会を中心に、他校の教育課程や指導内容を研究し、具体的な指導計画を検討している。 ・生徒による授業評価、教科を超えた授業交流や研究授業を通して授業改善に努めている。	①柔軟性をもって教育課程や指導計画を編成できたか。 ②学校全体として組織的に取り組めたか。 ③生徒が主体的に学び理解を促す授業が展開できたか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○各種委員会等の柔軟な運用により現在の課題を解決できる新教育課程を編成した。 ○日々の生徒の実態を常に共有しつつ、生徒が主体的に協働的に学習する学習内容や授業の工夫に努めることができた。 △新入試に求められる学力や人間性の育成を図るため、目指すべき方向性を全職員で共有して、具体的な授業計画を策定する。	
12 来年度に向けての改善方策案	・これまで以上に個に応じた学習指導ができるよう、授業ばかりではなく補習等も含めた学校全体としての体系的な学習指導活動を関係部署と連携して検討し進めていく。	
実施年月日：平成30年7月2日		

II 学校関係者評価

【意見・要望・評価等】 ・協働的形態をとる授業では、特に、生徒の主体的な学びを見ることができた。 ・分割授業や少人数授業は内容の理解を深めることにおいて有効である。 ・地域の状況を知り、魅力を確認することで、将来にわたって地域とつながることができるような取組も大切にしてほしい。

2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び保護者対象アンケートでは、進路に関する情報提供及びアドバイスでは80%以上の肯定的評価を得ている。学校評議委員会からは、新入試に対する情報提示及びキャリア教育の指導の必要性についての意見をいただいた。これまで行っている講演会や地元就職ガイダンス等について、より生徒及び保護者のニーズに沿った内容を加えることを検討する。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通じて、地域社会に貢献できる学力・能力をもった人材育成を目指す。 ・キャリア教育に力を注ぎ、能力・適性を生かした自己の在り方・生き方を考えさせる。 ・一人一人が自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、主体的に進路を考え、目標を達成できるようサポートする。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部内との協力体制の強化 ・学年会や他分掌との連携を強化 ・地元企業や、本校卒業生等との連携 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) SGHの取組 (2) 講座、説明会及び大学見学会等の開催 (3) 看護体験、入試研究会等への参加 (4) インターンシップ及び地元企業ガイダンスの開催 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒及び保護者のアンケート及び感想文 (2) 生徒のアンケート (3) 生徒の感想文 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・SGH：地域活性化プログラム（2年）地域のもつ課題を発見し、問題解決に向けた提案を行う。 ・SGH：社会人講師による講話（2年）：地元で働く社会人講師の講話から地域の魅力や課題を認識。 ・SGH：コミュニケーション活動（1・2年）：英語ディベート講習及びエンパワーメントプログラム（希望者）による英語コミュニケーション能力の育成及び海外研修（希望者）での実践。 ・学部学科ガイダンス（2，3年）：進学後に学ぶ内容についての大学教員からの講話。 ・職業講話（1年）：卒業生の社会人の講話から、地元の魅力や問題点、Uターン就職の意義等の学習。 ・ポートフォリオの蓄積（1年）：新入試制度への対応としての、様々な活動内容の記録と蓄積。 ・保護者対象の説明会や学年集会等での入試ガイダンスの実施、希望者の東大見学会や難関大入試研究会等への参加。 ・1，2年希望者の看護体験やインターンシップに参加。3年の一部が地元企業ガイダンスに参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員が組織的に取り組めたか ②生徒が積極的に参加したか ③生徒が満足できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> A <input checked="" type="radio"/> B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○SGHの地域活性化プログラムでは、地元企業や大学等の協力を得ながら、生徒の課題発見・解決能力を育成することができた。 ○SGHのコミュニケーション能力育成プログラムでは、英語コミュニケーション能力だけでなく、グローバルな視野も含め、育成することができた。 ○学部学科説明会や社会人講話、地元企業ガイダンス等で、進学した後の学びやUターン就職も含めたキャリア形成についての情報を与えることができた。 ▲1年生に対して新入試制度についての対応（ポートフォリオ等）を始めたが、まだ詳細が決定していないこともあり、今後も情報収集と対応を強化したい。 	
12 来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・新入試制度の対応と指導を学年会や他分掌と連携して行う。 ・3年間の進路指導計画に基づいた進路指導の共有。 		

II 学校関係者評価

実施年月日 :平成30年7月2日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学だけではなく、進学先の学び等について見通しをもった進路指導で、学習意欲が高まると思う ・地域に戻ってくる生徒が少ない、ということを経験校の問題として考えてもらいたい。学校と連携しながら、地域の良さを伝えることで、Iターン、Uターンをする若者を増やす必要がある。 ・新入試制度のためにも、学校と地域が協力した広域な教育活動が必要である。
--

2 評価する領域・分野	◇生徒指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なモラルやマナー、服装や身だしなみの指導について肯定的に捉えており、生徒自身も自覚を持って行動している。 ・交通安全や防犯、防災面についての指導、情報の周知徹底について十分理解されている。 ・多様な生徒やその家庭に対して、幅広く対応できる体制や校外との協力関係など周知を図る必要がある。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇高等学校教育指導の方針と重点に則り、様々な教育活動を通じて、生徒一人一人に規範意識と倫理観を体得させ、明るく活気に満ちた校風を樹立できるよう指導する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による登下校指導と生徒指導部による校門指導 ・「授業規律の確立」(ベル席・端正な身なり・きれいな教室) ・全職員による生徒指導体制の確立 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 校門指導による交通安全と遅刻の防止 (2) 生徒との対話を通じていじめの未然防止 (3) 講話・講習会による情報リテラシーの醸成	(1) 5分前登校の呼びかけ (2) クラス居心地度調査(年3回実施) (3) 情報モラルチェックシート(年3回実施)	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の交通指導(校門・東門・旧久美愛交差点・JA看護寮)校外(日枝神社、八幡神社周辺)での交通指導 ・MSLによる啓発活動 ・クラス居心地度調査 ・生徒への講話・情報モラルチェックシート 	① 過去5年間との比較 ② 生徒・保護者による学校評価 ③ アンケート結果の比較	A (B) C D (A) B C D A (B) C D
11 成果・課題	○交通事故については、命に関わるような大きな事故はなかった。交通マナーについては、さらに指導を継続していく必要がある。 ○生徒は落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っており、服装や身だしなみについて生徒の自覚が見られる。 ▲情報モラルについては、拡大・多様化するスマホの利用について、教員も研修を積み、徹底した生徒への指導が必要となってきた。 ○近年、豪雨や台風による災害が顕著となり、また大規模な火山や地震災害も懸念される。生徒の自主的な防災能力の涵養を多面的に考えていきたい。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルに関する講話や指導について、年度前半にまとめる。また、学校行事の際にルールやモラルについて、さらに徹底できるよう呼びかける。 ・交通安全指導については、大きな事故はなかったが、集会などで繰り返し行う必要がある。 ・MSリーダーズの活動については、高山警察署が近くなったこともあり、各種交通安全活動において協力を深めたい。 	
11 総合評価	総合評価 A (B) C D	

II 学校関係者評価

実施年月日 :平成30年7月2日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自主的に自覚を持って活動していることが伺える。今後ともこの雰囲気を継続してほしい。 ・大半の生徒が飛騨を離れる中、本校ならではの校風を守り、Uターンにつなげてほしい。 ・女子生徒の制服のタイトの色に対する御意見をいただきました。地域の進学校、伝統校でもある本校において、何を変え、何を変えないのか。今後とも幅広い御意見をいただきたい。

2 評価する領域・分野	◇特別活動			
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事は生徒を中心として全校体制で取り組まれており、保護者の協力や理解も得られている。 ・学力の伸長だけでなく、健全な身体、豊かな心の成長を含めた人間を育成しようとする校風が感じられる。 ・生徒会活動や部活動は活発に行われており、生徒の充実度も高い。学業とのバランスもとれている。 			
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学校行事や生徒会活動の諸行事が円滑に行われるよう努める。諸活動を通して、自主的に活動できる力を養成し、社会に貢献できる態度を育成する。充実した部活動等により自己を生かす能力を育成する。			
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・他分掌や学年との連携を図る。 ・生徒会執行委員や各実行委員会との連絡調整が円滑に行われるようホームルーム委員との連携を図る。 			
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標			
(1) 生徒会執行委員及び各実行委員会の充実 (2) 全校体制の組織づくり・運営	(1) 生徒・職員各種アンケート結果の分析 (2) 生徒会執行委員・議会等の意見の集約			
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価		
<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や体育祭は、実行委員会や生徒会執行委員を中心として活発に運営されている。 ・部活動加入率は95%を占め活発に活動しており、全国大会への出場も果たしている。 ・生徒会執行委員は全校生徒の意見をまとめ、「校長先生と語る会」等で要望を提示し実現をはかるなど、生徒の代表者としての責任を果たしている。 	①学校行事は洗練されており他との調和が図られているか ②部活動は適切に運営されているか。 ③課題を見つけ自主的に解決しようとする態度が育っているか。	(A) B C D A (B) C D A (B) C D		
11 成果・課題	○文化祭や体育祭など諸行事は、実行委員会や生徒会を中心として企画・運営がなされ、学校全体がより良いものを作り上げようとした。 ○部活動等において、陸上競技部の全国高校総体出場や美術部・放送部・軽音部などの全国総文祭出場をはじめ、体育系・文化系ともに活躍がみられた。 ○西日本豪雨災害に対しての街頭募金活動などを実施し、社会に関心を持ちボランティア精神の涵養に貢献できた。 ○意見箱やアンケートの実施によって生徒の意見を広く取り入れ、要望の実現に取り組み、行事以外にも学校の活性化に努めた。 ▲生徒会活動・部活動と学業などとのバランスをうまく保つことができるよう支援していきたい。		総合評価 A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・諸行事に携わる生徒は毎年異なるため、実行委員会の立ち上げなど早めに準備に取り掛かり、生徒の主体性を尊重しつつ、職員との連携を密にして行事の質的向上を図る。 ・生徒会活動や部活動など、生徒の積極的な課外活動に理解を示し、学業とのバランスを図りながら一層充実した学校生活を送れるよう支援する。 			

II 学校関係者評価

実施年月日 :平成30年7月2日

【意見・要望・評価等】

- ・学力だけでなく、健全な身体、豊かな心も含めた人間を育成しようとしている。
- ・生徒の成長の糧となるような学校行事を行っている。
- ・部活動が適切な管理体制の下、活発に行われており、且つ適切に運営されている。
- ・同窓会のご支援を受け、部活動成果の広報が積極的に行われている。
- ・自由にして節度ある人間関係が醸成されている。

2 評価する領域・分野	◇ 図書広報	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：読書活動を促すための各種取組を行っているものの、本の貸し出し冊数が伸び悩んでいる。 ・広報：生徒及び保護者等を対象とするアンケートによれば、本校の情報発信力については高い評価をいただいている。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：生徒を中心とした図書委員会活動を支え、図書館の環境を整える。 ・広報：多岐にわたる広報活動のスムーズな運営。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：各クラスの図書委員の活動を通じ、多くの生徒に読書を勧める。ホームルーム・授業での図書館の活用を増やす。 ・広報：他分掌との情報の共有と全校体制での取組。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・図書：生徒の読書活動を促すために、行事等との有機的な連携を図る。また、図書館の利用簿を見直すなど、先生方にも図書館の利用を働きかける。 ・広報：分掌内及び他分掌との綿密な情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：各クラスの図書の貸出し数の確認、図書館の利用頻度の確認。 ・広報：各行事ごとに実施するアンケート結果の分析。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・図書：文化祭への積極的参加や掲示板の活用による図書館のPR、古書譲り渡し、ビブリオバトルへの参加、LHRや授業での図書館の活用の推進。 ・広報：学校説明会の資料作成、斐太高OC・中学校一日の実施、学習サポートを中心とするボランティア活動の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書：生徒が中心に運営できたか。また、図書館の積極的な使用がなされたか。 ・広報：昨年度の反省を踏まえより効果的なPR活動ができたか。 	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
11 成果・課題	<p>○今年度は、図書広報という新しい分掌が発足して2年目となった。構成メンバーが変わったこともあり多少手狭とはなったが司書室で全メンバーが勤務する形態に変え、仕事の効率化と部署内での情報共有の緊密化に努めた。図書部門においては、司書を中心に生徒が主体の読書活動の推進に努めたほかビブリオバトルの県大会に昨年に引き続き生徒が出場するなど、幅の広い活動を行うことが出来た。広報部門においては、OCを始めとして全校体制で臨む行事がメインになるが、各分掌及び全職員の協力のもと、前年度の反省を踏まえつつも、生徒の主体的な運営を念頭に運営することができた。</p> <p>▲読書活動のより一層の推進と広報活動の内容の充実。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・図書：図書館が生徒にとっても先生にとっても居心地の良い空間であることを確保しつつ、なるべく多くの生徒が図書館を訪れ、読書に励むような環境作りの工夫。 ・広報：HPは今年からWordPressに移行して、ホームページの更新がしやすくなったことから、これまで以上にトップページをはじめとして更新回数を増やした。今後も保護者を始め見る人のニーズに応えられるホームページの充実に努めたい。その他の広報活動についても、斐太高校の魅力を効果的に伝えるために、前年度踏襲ではない方法論等を各行事ごとのアンケート結果を踏まえ検討する。 		

2	評価する領域・分野	◇ 教育相談		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生がいる」に関して、昨年より微減したが、90%以上の生徒が肯定的に評価している。 ・「学校では個々の生徒に対して適切な教育相談的な指導を行っている」に関して、80%以上の保護者が肯定しているが、わからないと答えた保護者が15%おり、広報活動がさらに必要だと思われる。 		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「教育相談の心を校内に広めよう」（校内支援システムの確立と充実） 職員会議、学年会、教科担任会議、職員研修等による教育相談体制の充実と連携強化を図り、全職員による教育相談を実践する。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートチームを適宜編成し、具体的な支援方法を研究する。 ・教員間の情報交換や共通理解を深める。 ・専門家によるスクールカウンセリングを活用し、支援の充実を図る。 ・心理検査「アイチェック」を実施し、クラスの把握や生徒支援に役立てる。 ・人権教育を推進し、広く人権に対する意識の高揚を図る。 		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 担任や学年会および関係分掌等と連携を積極的に実施。 (2) 生徒や保護者へのサポートの実施。 (3) 外部機関の有効利用。 (4) アイチェックの結果の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> (1・2・3) 意思疎通の状況、生徒支援状況。 (4) 検査の分析と利用状況の分析。 		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や学年団と連携、情報交換を行った。 ・生徒や保護者との懇談や家庭訪問を適宜実施し支援を図った。 ・外部機関や校内の生徒指導部、保健室と情報交換をし、連携を図った。 ・職員会議等を利用し、情報交換と支援を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援体制は適切であったか。 ・生徒や保護者の思いに叶うものであったか。 ・連携がとれ、情報交換や協力体制ができているか。 ・情報交換や協力体制がとれているか。 	<ul style="list-style-type: none"> Ⓐ B C D A Ⓑ C D Ⓐ B C D A Ⓑ C D 	
11	成果・課題	○悩みを抱えた生徒に対して、関係職員との連携を取りながら支援を行うことができた。 ○積極的に外部機関や専門家との連携をとることができた。(スクールカウンセラーの活用や中学校、子ども相談センター等との連携) ▲より良い支援体制作りと支援の充実を図る。 ▲長期休業明けに学業に対するつまずきから登校を渋る生徒が出てきている。事前の声かけや励ましの必要性を感じる。		総合評価 A Ⓑ C D
12	来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・担任・生徒・保護者への支援体制について継続的に検討、研究を行う。 ・必要に応じて、ケース会議を開き、校内での連携と支援に努める。 ・配慮を要する生徒の早期発見とその生徒への適切な対応と支援に努める。 			

2 評価する領域・分野	◇ 保健厚生	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	アンケート結果から、校内美化については昨年に引き続き概ね良い評価を得ている。各学年で実施している朝の廊下掃除の成果であると思われる。今後も継続して実施していきたい。一方で週明けにゴミやほこりが目立つという意見もある。対処したい。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主的な健康管理を促進するために情報提供を図る。 ・校内の清掃活動の充実。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会、厚生委員会の活動を促進する。 ・全校生徒、全職員による清掃活動の実施。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりや職員研修の充実、生徒情報の共有 ・保健講話（今年度は性教育がテーマ）の実施 ・毎日の清掃活動と厚生委員によるゴミの分別収集確認 ・保健委員・厚生委員による点検の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康管理（出欠席状況、治療等）の確認 ・掃除の徹底、ごみの分別、ロッカーの整理整頓の状況確認 ・生徒、職員による日常点検および点検表の集計及び対応（修繕等） 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりの発行、心肺蘇生講習会等の研修の実施や生徒情報の提供。 ・掃除の時間には生徒・職員全校体制で自覚と責任を持って取り組む。 ・ゴミの分別は各クラスで確実にいき、厚生委員が点検・指導する。 ・保健委員が日常の教室点検を、厚生委員が掃除点検をそれぞれ行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の健康管理（出欠席状況治療等）の確認。 ・点検結果の考察。日常点検。 ・ゴミの分別状況の確認。 	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○厚生委員や保健委員は行事や普段の活動に積極的に役割をこなすことができた。 ○心肺蘇生講習会に積極的に取り組むことができた。講習会や職員会議を通して熱中症やアレルギー症状に関して理解を深めることができた。 ▲ゴミの分別、減量化がまだ十分ではない。今後も更なるゴミの分別、減量化に取り組むたい。 ▲ワックス掛けでの汚れのふき取りが徹底されず、床に残ってしまった。	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主的な委員会活動をさらに促進し、健康管理の充実を図る。 ・ごみの減量、分別がまだ十分に徹底していない。さらに周知したい。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年7月25日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・校内美化については、概ね良い評価をいただいている。ただ、曜日や場所によってゴミ箱があふれたり埃が残っていたりすることがある。職員、生徒にさらなる協力をお願いしたい。 ・さらに細かいところまで気を配り、美化に努めていきたい。
--

2 評価する領域・分野	◇ 渉外	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会主催の各種行事において役員会・学年委員会を中心に積極的に取り組んでいる。 ・学校行事の文化祭・体育祭・マラソン大会への参加は多数ある。 ・育友会総会への一般の会員の参加率は必ずしも十分とはいえない。 ・今年度より有斐会総会の運営を有斐会役員が中心になって行うという提案がされ、理事の担当者が中心となって運営していただいた。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・育友会及び同窓会の活動の見直しを図る。 ・各行事の準備、運営を確実に行う。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・参加意欲を高めるための方策を個々の行事に即して検討していく。 ・行事後のアンケートを分析し、会員の要望を明らかにしていく。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 文化祭バザーの成功のため、育友会実行委員会と連携を取りながら実施する。 (2) P Tフォーラムの事前アンケートの実施と講師選考、進行方法の検討により、参加意欲を高める。 (3) 有斐会理事会の予定を早めに決め、参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 準備・運営が確実にできたか。 (2) 事前アンケートに答える会にする。活発な意見交換と保護者の満足度 (3) 有斐会の実質的な活動が行われるか。 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭バザーは年々、前年度の反省をもとに、開店時間、分担、ご飯の量の徹底など改善・業務の引き継ぎを行ってきた。 ・P Tフォーラムは昨年の事後アンケートを受け春先より実行委員会で講師選考、進行方法、事前アンケートをどのように活かすかを検討し、参加者が何を期待しているかを考え、講師との連携を取りながら計画を立てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①滞りなく運営できたか。 ②活発な意見交換が行われたか アンケートによる評価	A (B) C D (A) B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○文化祭バザーは、経験豊富な実行委員が多く、昨年度の反省を活かして運営できた。 ○P Tフォーラムは国公立大学進学者、私大学進学者、浪人経験者を講師とし講話のあとは、質疑の時間とした事で一方的にならず、事後アンケートの評判も良かった。 ○有斐会総会の座席割り等を有斐会役員にやっていただいた。 ▲育友会行事が盛大に行われるために役員や職員の大きな負担がある。 	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の育友会実行委員の熱心な取り組みにより行事の運営がスムーズに行われている。見直しの必要な行事はないか検討したが来年も同様に行いたいとの意見で、実行委員には負担をかけるがお願いしたい。 ・P Tフォーラムは昨年度に引き続き、事後アンケートで良い評価をいただけた。講師選考、進行についての事前準備、講師とのメール等による事前打ち合わせなど多くの人の協力を必要とするので、早めの計画に心がけたい。 ・有斐会と学校とのかかわり方について 		